

7月 園だより

<教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども
R2. 6. 30 文京区立本駒込幼稚園



副園長 山下 美幸

6月の登園開始から、1か月がたちました。毎日、園内には子どもたちの元気な声が響きわたっています。子どもたちの声が聞こえるという日々の中で、改めて当たり前の日常のありがたさを感じます。保護者の皆様には、分散登園、時差登園等、様々なところでのご理解、ご協力をいただき本当にありがとうございます。

先日の「開園記念を祝う会」は、密を避けるため、今年度は学級ごとに行いました。このような状況の中でも、楽しいお祝いができるように、各担任がお楽しみを考えて準備をしました。年長すみれ組では、担任がシルクハットを被ったマジシャンに変身して、マジックショーを行いました。様々なマジックの不思議さを目の当たりにし、子どもたちから驚きの歓声が上がっていました。年中さくら組は、担任がマジックスクリーンを作り、クイズ（絵で描いた輪郭から食べ物当てクイズ。当たると魔法をかけたかのように色鮮やかな食べ物の絵が出てくる）を行い、最後に出てきたデコレーションケーキの絵のろうそくを吹き消す演出をしていました。年少ちゅうりっぷ組では、担任がケーキを作る工程を描いた絵をめくりながら、子どもたちと一緒にケーキを作っていくパタパタシアターを見せていました。最後に箱で作ったオープンの中に入れ、中からデコレーションケーキの絵が出てくると、子どもたちから歓声があがりました。

年長組、年中組は弁当が始まりました。今年は感染予防のため、それぞれの学年の発達に応じ、従来のやり方ではない方法を考えて食べています。年長すみれ組では、ホールでグループごとに机を囲うように座って食べますが、中央に透明のアクリル板を置いて仕切り、左右の友達と間隔をあけて食べています。弁当初日、生活グループの名前の相談をする際にも、アクリル板を置くことで、飛沫が飛びにくい工夫をしていました。年中さくら組では、保育室で、間隔をあけて並べた机に2人ずつ並んで座り、一方向を向くように座って弁当を食べています。

この1か月を過ごす中で、これまで通りといかないことに不便を感じることもありますが、決して悪いことばかりではないと感じます。私たち教職員にとっては、これまでのやり方を基に、発想を転換させて考える、工夫するという柔軟性を学ぶ機会になっていると感じます。「ピンチはチャンス」この言葉を胸に、今後も教職員一同、幼稚園の中での新しい生活様式を模索しながら取り組んでまいります。保護者の皆様どうぞよろしくお願いいたします。



すみれ組



さくら組



ちゅうりっぷ組



すみれ組弁当